

令和元年度第2回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和2年2月13日（木）9：30～12：05

場所：フォーラム末広 2階 会議室

出席：委員16名中、13名が出席

議事：（1）第4期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

（2）第4期高知県産業振興計画における嶺北地域アクションプラン（案）について

（3）産業成長戦略について

1）移住促進の取り組みについて

2）観光振興の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）第4期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

意見交換等、特になし。

（2）第4期高知県産業振興計画における嶺北地域アクションプラン（案）について

（No.23 集落活動センター西峯におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み）

（重光委員）

林業の苗木の樹種と販売先の実績はどうなっているか。

（豊永地域産業振興監）

今のところ全てスギで、販売先は種苗緑化組合を通じて大豊町森林組合や住友林業に出荷している。今後量を増やしていくので、できれば嶺北地域の他の森林組合でも活用していただければありがたい。

（No.5 銀不老による地域活性化の取り組み）

（小笠原（妙）委員）

城西館が銀不老の加工品を作っているが、大豊町で製品化する計画はいつ頃できるのか。

（豊永地域産業振興監）

まずは生産者を取りまとめる組織をしっかりとって生産量を増やすこと。将来的な目標として加工品の製品化までやっていければと考えている。

（No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化）

（小笠原（妙）委員）

はちきん地鶏は商品そのものは美味しいので、販売力を磨くともっと売れるのではないかと。

（和田（知）委員）

県に人材紹介等の支援も受けながら、ふるさとむら公社を中心に営業販売に力を入れている

ところ。委員の意見も踏まえ、嶺北から全国へとより一層営業を強化していく。

(豊永地域産業振興監)

土佐れいほく博でも地域内ではちきん地鶏を使っていただけのお店が増えてきて、少しずつ知名度も上がっている。公社の経営状況を良くするためには県外にもしっかりと売っていく必要がある。

(No.19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大)

(重光委員)

土佐れいほく博はそれなりの成果が上がったと思うが、来訪者を増やし滞在時間を延ばすためには宿泊施設や飲食店が少ない。

(豊永地域産業振興監)

今進めている広域の観光ルートをしっかりと作り上げ、もう一泊していただくような周遊パターンを幾つも作り、広域で売り出していくことが非常に重要になるので、県としてもしっかり支援をしていく。

(川村委員)

土佐れいほく博で増加した交流人口をどう維持するのか。土佐れいほく博の時のように、イベントに対する補助などの支援は計画されていないか。

(豊永地域産業振興監)

土佐れいほく博の終了に伴い、そういった支援は一旦なくなるが、広域的な観光のセールスや誘致に対する補助金等の支援策を検討している。

(地域観光課 別府課長)

県の自然&体験キャンペーンの中で、自然体験のイベントなどは一定期間の継続等を条件に補助金による支援も用意しているので相談いただきたい。

(No.6 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)

(窪内委員)

バイオマス発電事業の燃料は木材であり、単価が高いA材、B材が燃料になってしまわないか心配している。

(嶺北林業振興事務所 柿部所長)

燃料を取り扱う事業者は製材用の原木として流通する以外の木材を燃料に使用するので心配には及ばないと思う。

(豊永地域産業振興監)

県としては、A材の価値をしっかりと高めて売っていく方向性で進めている。

(3) 産業成長戦略について

(移住促進の取り組みについて)

(川村委員)

今後移住者に占める地域おこし協力隊の比率がさらに上がってくると考えているが、行政と地域おこし協力隊員とのトラブルも発生していると聞く。行政職員向けの地域おこし協力隊の

受入れに関する研修があると、トラブルを未然に防げ、定着にもつながるのではないか。

(豊永地域産業振興監)

そのような研修はないと思うので、担当部局にご意見を伝える。各市町村や人づくり広域連合での研修も考えられると思う。

(観光振興の取り組みについて)

(小笠原(妙)委員)

県内をブロックに分け、ブロックをいくつか観光してきたら、ポイントが加算されて高知県の特産品がもらえるようなスタンプラリーのようなものはできないか。

(観光政策課 奥田企画監)

2月から「春のお出かけキャンペーン」がスタートしている。これは県内37施設と3つのイベント会場を5ヶ所回ったら景品がもらえるというもの。今後は、各エリアに1ヶ所ずつ行き、全エリアを制覇すればプレゼントがもらえるなどの周遊を促す仕組みを考えたい。

(以上)